

平成 27 年度 病床機能報告結果 （診療実績等）における考察部分の再掲

（各医療機能区分の病床数について）

- ・将来の必要病床数と直近の病床機能報告の結果を比べると、回復期以外は過剰となっている。
- ・高度急性期と報告のあった病院は弘前大学医学部附属病院と健生病院の 2 病院のみである。
- ・現在、入院で対応している患者のうち将来的に在宅医療へ移行することが可能と考えられる患者は、平成 37 年で 710 人と推計されており、新たに在宅医療の提供体制の整備が必要である。

（算定する入院基本料届出病床数について）

- ・急性期と報告のあった病棟について、必ずしも一般病棟 7 対 1、10 対 1 基本料の届出をしているとは限らない。
- ・弘前市立病院、黒石病院のみが地域包括ケア病棟入院料 1 の届出をしている。

（認定・届出等について）

- ・在宅療養支援病院の届出を行っている病院は弘愛会病院、ときわ会病院の 2 病院である。
- ・在宅療養後方支援病院の届出を行っている病院はない。

（手術の状況について）

- ・急性期と報告のあった病院において、1 カ月の手術件数が 30 件に満たない病院がある。
- ・急性期と報告のあった病院において、全身麻酔の手術を行っていない病院がある。

（がん、心筋梗塞、分娩への対応状況について）

- ・悪性腫瘍手術の手術を月 30 件以上行っているのは、弘前大学医学部附属病院、弘前市立病院の 2 病院である。
- ・心筋梗塞（経皮的冠動脈形成術）の手術を行っているのは、弘前大学医学部附属病院、健生病院の 2 病院である。
- ・分娩取扱を行っているのは、国立病院機構弘前病院、弘前大学医学部附属病院、健生病院の 3 病院である。

（救急医療の実施状況について）

- ・救急車受入件数が年間 750 件を超えている病院は 5 病院となっている。